

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：奈良井・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和5年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号（新病害虫発生情報）

令和5年8月17日
島根県病害虫防除所

トマトキバガ成虫がフェロモントラップに本県で初めて確認されたので特殊報を発表します。

1 病害虫名 トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

2 確認場所 出雲市、浜田市

3 発生確認の経緯

令和5年7月20日、農業技術センターのハウストマトほ場(出雲市)周辺の露地に設置しているトマトキバガの侵入調査用のフェロモントラップ(誘殺期間：7月6-20日)において、本種疑義雄成虫1頭の誘殺が確認された(写真1)。誘殺された成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、7月27日に本県では未発生のトマトキバガであることが確認された。また、神戸植物防疫所広島支所が浜田港に設置しているフェロモントラップにおいても、7月19日に5頭(誘殺期間：7月3-19日)、7月27日に2頭(誘殺期間：7月19-27日)の本種雄成虫の誘殺が確認されている。なお、県内では現在のところ農作物の被害は確認されていない。

4 国内外での発生状況

本種は南アメリカ原産であるが、平成18年にスペインへの侵入が確認されて以降、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、西アジア、アラビア半島、インド、ネパール、東南アジアに分布を拡大し、令和3年までに台湾、中国、中央アジア諸国等の近隣地域でも発生が確認されている。国内では、令和3年10月に熊本県で初めて確認されて以降、計21道県(令和5年8月15日時点)で確認されている。

5 形態及び生態

1) 形態

成虫(写真2)は、翅を閉じた静止時で体長5~7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である。幼虫(写真3)は、終齢で約8mm。体色は淡緑色~淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

2) 生態

1年に複数回の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10~12世代発生する地域もある。卵~成虫になるまでの期間は24~38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。雌は一生のうち平均で約260個の卵を寄生植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は1齢~4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

成虫は飛翔により自力で数km移動する。風に乗ってさらに長距離の移動も可能である。また、海外ではトマトの苗や果実の移動に伴い分散することが報告されている。その他の寄主植物の苗の移動による分散も考えられる。

6 被害の特徴

トマト、ピーマン、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。被害はトマトでは、莖葉

の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（写真4）。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する（写真5）。

7 防除対策

- 1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- 2) 被害葉や被害果はほ場から持ち出し、野外に放置せずに土中深くに埋却するか、ビニル袋に入れて一定期間密閉し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分する。
- 3) 現在、トマトキバガに対する登録農薬はトマトとミニトマトにある。また、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

8 その他

疑わしい被害や虫が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター 資源環境研究部 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。



写真1 フェロモントラップで誘殺された成虫



写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ終齢幼虫



写真5 トマト果実の食痕(飼育個体)



写真4 トマト葉の食痕
(飼育個体)